

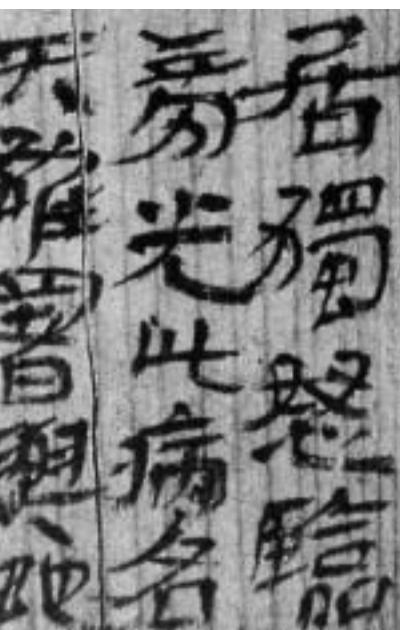
馬 姜 墓 誌 銘

延平元年(106)
(漢時代)

図版② 馬姜墓誌銘と武威漢簡の比較



馬姜墓誌 (選字)



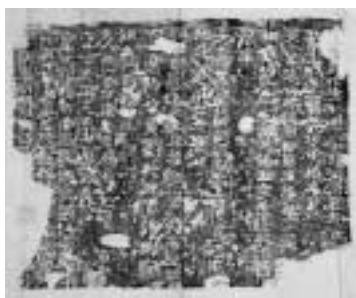
図版③ 馬姜墓誌銘全体

歴代墓誌銘にみる 書法の変遷①

木 雜

木 雜 室

伊 藤 滋



ではないでしょうか。

ないので「古隸」(書)に属します。

金石文の中でも「墓誌銘」と称される刻石は、その名称が示すように墓主の事績を石に刻して墓室に安置されたものです。長い間地中に埋められていたために風雨に曝されたり壊されたりすることが少なく、刻された文字が当時の書風をよく伝えています。そのため古代の書法学習の古典として尊重されています。今号から、漢時代から

唐時代までの特色ある優れた書風の墓誌を数回にわたり紹介していきます。

最初は、墓誌銘の最古のものとされる「馬姜墓誌銘」です。1927年に洛陽で出土したと伝えられていますが、現在は東北の旅順博物館に所蔵です。誌面は縦46cm横60cm、縦に4cm幅の界線があり、文字はその行間に刻されています。書体は隸書であり、八分の波磔が

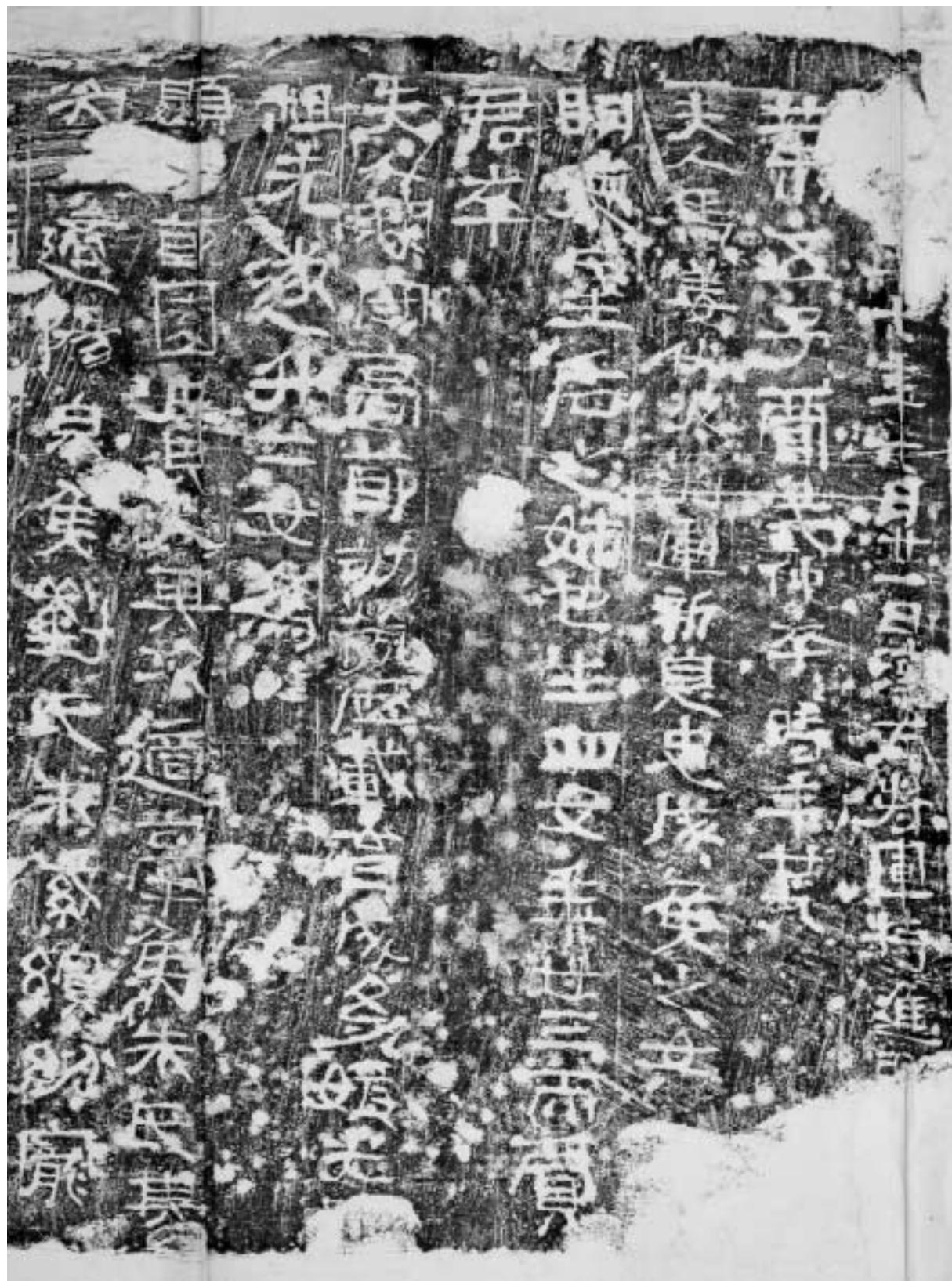
次号は三国時代の「張朗墓誌銘」です。

この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私は直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤 滋 メールアドレス

mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

図版① 馬姜墓誌銘（部分縮小）



書道芸術院

平成の群像 (2010)



木村 船 翠

「道のり」

「一画が終るまで息を止めて！」
といふ。ながら顔面を真赤に染めての実技
指導。小学三年担任岩室博翠先生の習
字授業の一コマ。課外でも特別指導が
あり、それは小学三年生から高等科二
年生まで全員統一課題での月例一字競

卒業後も暫くは仮名を続けましたが、
漢字に移行して現在に至っています。
翠城先生の御指導は計り知れない情
熱で師、また書に対する心得等を優
しく時には厳しく教示いただきました。
また「一たび志を立てたらば出産時
と親の死亡時以外は休まない。痛い時
は痛い字を、悲しい時は悲しい字を。
百枚書いて書けなければ二百枚、それ
で駄目なら千枚書けばよい、愚痴をこ
ばすな。」というような徹底した指導
をうけました。翠城先生に出会えたこ
とを今更ながら有難く幸運を噛み締め
ています。

書、用紙は半紙二分の一。当時小学三年の私の作品「朝」が一席に選ばれ講堂に展示されたのが私の書の道への決定的な第一歩となりました。博翠先生の授業は兵役につかれたため一年余りで終りました。高等女学校の書道は岩垣翠城先生で主に仮名書の指導を受け

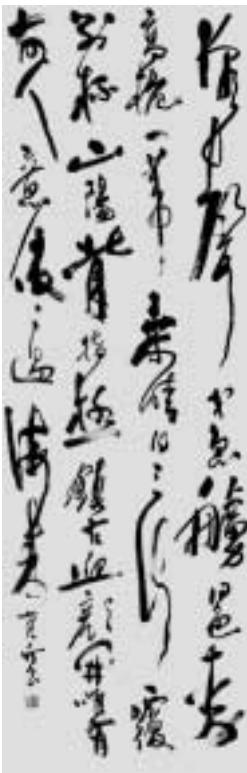
勤務してから練習の時間が無い場合、みた母は墨池に磨った墨を貯めて、私の帰りを待っていてくれました。冬の夜は火鉢に自分の手をかざし小さな座布団をその手の上に乗せて温め、干し柿を焼き私が一休みする時に座布団を背中に当て、温めた手で私の手を揉みほぐしてお茶と干し柿を食べさせてくれました。このように私の書は、母の無限の愛によって育まれたものだと思っています。

さて、私が今後目ざす書は、余白の美、緩急、潤渴を交え、豪快で温もりの伝わる、観て楽しくなる。このような作品を書きたいと念じています。

戦中は文房四宝が乏しい故に筆に水を含ませて書けば次第に消えてゆく、そんな用紙に繰り返しての練習で書いた字も残らない状態なので新聞紙を半紙に切り、墨で真黒になるまで書いたものです。

漢字(一)

名越蒼竹



名越蒼竹書

書風が色あせて見えもし、自己否定に等しい心境でもあった。

習い事において誰を師とするかは重要なことだとされている。良くも悪くもその影響は弟子に終世について回るというのである。しかし私たちがどのような親の下に生まれるかを選べないよう、完璧な師の選択というものは望めないだろう。結局偶然に過ぎない出会いを、後になつてそれは必然であつたと自己肯定できるように、自分自身が努力して行くしかないのである。

高校までの私は見よう見まねで師風に似せることしか頭になかった。しかし大学に進んでみて、初めて様々な古典に出会い、理論を知った。大學書道科での学びはそれまで絶対的存在であった師が相対化されていく過程である。それは一心に近づこうとしていた師の

大学から帰郷した私はしばらく師風からの距離を置こうとしたのも事実である。ところがこのことは結局実を結ばなかつた。「守・破・離」の「守」もまともにできないうちに「破」を考えていたのだから、あまりにも無謀すぎたのである。結局糸余曲折を経て、今では改めて師風を肯定的に見られるようになっていりし、それは私の書にも反映している。

前衛書(一)

工藤永翠



工藤永翠書

上げた時、「それでいい」と先生がおっしゃった。

禅に「無念無想」という言葉があり、これと考え上手く書こうと雑念を持ちつつ筆を動かしていたのだ。それを玄先生の勧めで、今は「さき大内魯邦先生の前衛書研究会に初めて参加した。それが私の前衛書に魅入っていく起點となつた。

21世紀の書

—私の主張—

今から20年前、私は、師千葉蒼玄先生の勧めで、今は「さき大内魯邦先生の前衛書研究会に初めて参加した。それが私の前衛書に魅入っていく起點となつた。

大内先生からは、古典の臨書の大切さ、そして前衛書について詳しく指導していただき、初めての院展作品制作に臨んだ。そして夕食後、先生は必死に書き続ける私を呼び、なんとコップ一杯の日本酒を差出し、「飲みなさい」と一言。?と思ひながらも一気に飲干すと、「さあ書きなさい」のまた一言。私は、頭の中が真っ白になりながらも心の赴くままに書いた。不思議なことに、体が自然に動き余計な力が入らず(アルコールだから当たり前である)何枚か仕



工藤永翠書

始めての経験

松村くに子

(かな部・審査会員)



多胡碑

古碑であります。国の特別史跡にも指定されており、比較的損傷しやすい石碑が、地元では昔より信仰の対象となっ

3月2日（日）の出来事です。私は始めて席上揮毫の経験をしました。多胡碑記念館企画による「第五回新春群馬書作家展」出品者の中より4名の揮毫者の一人が、かな部の私でした。

さて、多胡碑の事を少しご紹介いたします。それは、群馬県吉井町にある故種谷扇舟先生も何度もおいでになりました。数年前より、(株)群馬県書道協会の後援で、毎年3月9日、史跡の一

般公開に併せて、書道文化の発展を願う為の展覧会が開催されて

おります。その様な企画の書道展出品者の中より、選出されると揮毫すると言う事は、責任重大な事でした。重い事でしたが、

師（下谷洋子先生）よりの叱咤激励でお受けする事にしました。

先生には、いつも筆の動かし方が重要であると言われており、特に呼吸、リズムに注意をし、それらが少しでも出せる様にと念じながらの運筆でした。揮毫の持ち時間は、一人三十分、また会場が広いと言う事で大きい作品がよ

いのではと、下谷先生にアドバイスを受け、大字がなを三種類書く事になりました。最初は、縦2×8のブルーの加工紙に俳句一句を、少々淡墨が映えると思い松煙墨を用いました。一番目は、白の2×6の画仙紙を横に、和歌二首を濃墨にして書きました。何だか初めの俳句より、こちらの方が緊張してしまい筆がふるえていた様にも思います。最後は全紙三枚に俳句一句を散らしましたが、文字が大きいため、気字豊かに、また潤滑が巧く出せるかとても心配でした。終わった後、ご覧になつていた方々より、「よかったです」と言つていただきとても安堵致しました。

私はこの経験を通して、いろいろな事を学びました。席上揮毫の経験豊富

松村くに子書



揮毫風景



平成21年度 新審査会員作品

II

蜜波羅鳳雲（漢）・阿部恵泉（現）・市川公山（刻）・濱野琴爽（漢）



蜜波羅鳳雲
(長野)

「老子徳經・我恒有三寶を紹紙
銀泥で書して」



高三の部活で飯高先生にご指導を賜り以来19年、師・家族・仲間の支えが私の大切な寶です。長野に嫁し自坊から父・先祖は萬葉集十首・御歌五首等の碑文等書いた後も元氣なままで暮れました。お陰様で喜び樂んで暮らす事が出来ました。この幸を見つめこの寶を書きものへと思考します。審査会員拝命を感謝し精進いたします。

(鳳雲)



市川公山
(長野)

「福寿」

六十の手習で始めた書が、刻字と出合ひ何時のか傘寿、記念にと「福寿」を刻してみました。鑿の音に心癒され、無心になれた楽しい一時でした。今日は書道芸術院、宮澤梅径先生ご指導の賜ものであり（刻・書）を樂寿として重ねて行きたい所存です。

(公山)



濱野琴爽
(大阪)

「丹」

万葉仮名をテーマにした春洋会展作品の「丹」です。師・恩地春洋先生・小林琴水先生の教えである息のしかた、お腹の底「丹田」から漲つてくる力を筆先にいかに伝え表現できるかを課題とし今後も精進して参りたいと思っております。

(琴爽)



阿部恵泉
(千葉)

「もくもくと雲のようにふるえて
いたい」
八木重吉詩



院賞を受賞した時の詩を、心新たに書きました。人間味溢れる師のもと、良き書友に励まされ、「持続は才能の別名である」の言葉を支えに、今後も精進して魅力ある作品を書きたいと願っています。

(恵泉)

平成21・22年度 新審査会員作品

II

安藤華祥（漢）・千葉華紅（前）・池田沙静（現）・三木江竹（漢）



安藤
華
祥
(宮城)



「萬歲壽而康」

健康で長生きとの願いを込めて書いてみました。私の好きな隸書で素朴で柔らかな雰囲気を出すよう装飾性の高い波磔をつげず淡墨で書いてみました。書は奥が深く遠い道のりですが、体力づくりを心がけ、楽しく勉強して行きたいと思っております。

（華祥）



池
田
沙
静
(千葉)

「継続」



「書を継続」と心に決め、二十数年、書道芸術院にご縁させていただき、ようやく審査会員へ昇格。嬉しく感謝しております。

辻元先生始め諸先生方のご指導のお陰と白扇会の諸先輩方に支えられたお陰です。有難うございます。

今回は「継続は力なり」と書きました。感動多き日々願つて。

（沙静）



三
木
江
竹
(大阪)

「慈」



亡き義母に勧められ筆を持つて二十数年、細くても長く続けてこられたのは恩地先生はじめ多くの先生方のおかげと感謝しております。

歩みはのろい私ですが、慈しみの心を忘れず進んで行きたいと思います。ご指導をよろしくお願い申し上げます。

（江竹）



千
葉
華
紅
(宮城)

「風に謳う」

一本の線を大切にし、その線を織りなして一枚の書を生む。そこに爽やかな風を感じることが出来れば、無上の喜びです。

熱いご指導を下さる先生、共に歩んで下さる書友の方々に心より感謝しながら、奥深い書の世界への更なる一步を踏み出せたらと願っています。

（華紅）



第46回 書道芸術院単位認定講習会

会場＝高知市文化プラザかるばーと

会期＝平成22年8月21日（土）～22日（日）

主管＝四国支局

支局長 大野 祥雲
報告 川島 舟錦

れ、一枚のボードの中に躍動感ある作品が完成していく過程は、刻字ならではの魅力だ。

（依岡紫峰）

【かな】

講師＝黒川江偉子先生
助講師＝中川 春香先生

半切に俳句作品を制作した。まず、行の流れに重点を置くことを学び、含墨・渴筆の変化も出そうと、受講者は

仮名の世界に引き込まれた。

先生の筆は、まるで生きているかの

よう、紙の上を大らかに自由に動く。流動美や、日本人の持つ繊細さにも思いを馳せることができた。（川村美泉）

四国支局、16年ぶりの講習会は、NHK大河ドラマ「龍馬伝」で賑わう高知市で開催された。役員・講師・助講師19名をお迎えし、受講者97名（スタッ

フ25名、合わせて141名の参加者で行われた。

川崎白雲生誕100年記念作品展の会期中（8月17日～22日）、まるで白雲先生の作品に見守られながら、というめったにない受講風景となった。

新体制となって初めての講習会は、辻元大雲理事長、恩地春洋会長のあいさつで開会した。例年より人数が少ない分、講師と受講者の距離は近く、中味の濃い充実した二日間となった。

開講式
【篆刻】
講師＝宮澤 梅径先生
助講師＝小林 古径先生
助講師＝清水 翠径先生
刻字経験がはじめての人も多いようだ。文字の複写にも迷いと緊張がある。「刻」に入ると指先集中で、夢中だ。

開講直後の会場、雰囲気は上々である。刀を進めることに新しい世界が生まれ



小林古径先生による実技

黒川江偉子先生揮毫

黒川江偉子先生講義



揮毫作品



【漢字】

講師＝種谷 萬城先生

助講師＝三浦 鄭街先生



種谷萬城先生講義

行書体「漢字条幅」創作について、盛り沢山の内容で行われた。また、様々
な古典に基づいた揮毫には見とれた。
今、学習したことを、今日の作品提出に生かすには少々時間不足、今後の
創作活動には、必要不可欠な内容だったと痛感している。種谷先生ありがとうございました。
(浜口瑞香)



揮毫作品



種谷萬城先生揮毫



砂本杏花先生揮毫・講義



【現代詩文】

講師＝砂本 杏花先生

助講師＝山崎 捩雪先生

墨色づくりの実演から入る。受講生は意欲的に、すぐに実践に入った。
範書も三班に分けて少人数で見学させたのでよく理解でき、見学終了後、直ちに練習。受講者は、創意工夫して取り組んでいたのが印象的。指導法が優れないと感心した。(依岡紫峰)

【前衛】



金井如水先生講義・揮毫作品



**講師＝金井 如水先生
助講師＝塚越 紅苑先生**
前衛書になじみの薄い高知の私達も先生方に、筆の持ち方や「気持ちを楽にして文字をデフォルメし、紙いっぱいに心情を書く」とアドバイスを受け「明」を書く。アンバランスな線が仕上がりを助けてくれた。白雲先生の書にも前衛作品がいくつかあり、教材に花を添えた。
(野村 知)



塚越紅苑先生のおはなし



金井如水先生揮毫



【懇親会】



辻元大雲先生講義



恩地春洋先生講義

【原拓書道史】

**講師＝辻元 大雲先生
助講師＝白石 和楓先生**

貴重な資料を披露して下さる絶好の機会。熱心な高校生や一般の方々も集基にした書道史の講義で、各書体の時代背景にまで及んで、内容に富むものであった。「拓本は全体を観る」これを結論とされた。

(唐石碧水)
まつた。拓本を扱う上での注意点からはじまり、テキストに従って内容を効率よく説明され感銘深かった。拓本を基にした書道史の講義で、各書体の時代背景にまで及んで、内容に富むものであった。「拓本は全体を観る」これを結論とされた。

【院史】

**講師＝恩地 春洋先生
助講師＝前田 龍雲先生**

書道芸術院の歴史を説明された後、白雲先生の展示作品から、先生の書と人間性を分析。若い時の基本学習、毛

硬筆書道復活への意欲、新書芸時代、アメリカ三ヶ月の書道交流、書団を離れて日本各地での書作、郷里鏡村（高知市）に帰って自然に親しみ、人々に愛され、自由に書の制作を。川崎白雲の書、および人間としての魅力満載の1時間20分だった。（谷脇梅翠）

【一般教養】

「土佐の反骨精神と書の人脈」

高知市文化プラザかるぽーと
横山隆一記念まんが館館長

小松 康夫

小松康夫氏の新聞人として把握された土佐の男性、女性の特徴を示しながら個人評を暖かく、面白く話された。最近、筆記による手紙、情報が少なくなつていく現状を問題視され、メールだけでなく会って話すこと、書いて渡すことのできる情愛や、信頼の大切なことを強調された。（谷脇梅翠）



謝 辞



単位認定証授与



小松康夫先生講演



主管=大野祥雲支局長あいさつ

中央から遠く離れた高知で、たくさんの自然を満喫していただくこと「龍馬伝」を身近に感じていただくことができたでしょうか。新阪急ホテルに宿泊の皆様には、日曜市を楽しんでいただけでしたようか。

スタッフ一同「交流」「学習」「経験」をつむことのできた刺激ある一日間。一つ所に集う参加者全員で創りあげるよろこびを体感できる機会に恵まれたことに深く感謝。また、真一郎君や真平君のような若いスタッフにとっては必ずやこれから生き方、作品づくりにも反映されるはず。

充分なことができなかつたことをお詫びし、報告とさせていただきます。

講習会会場



坂本龍馬像



第46回 書道芸術院単位認定講習会

特別研究部臨書課題

II (全紙以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

蘭亭叙は、永和9年3月3日、会稽山陰蘭亭において羲之をはじめ41人の文人墨客が曲水の宴を開いたときの詩集の序文である。羲之の代表作として古来これほど親しまれた行書名品は他に例を見ない。臨本、模刻本等、非常に多いが、掲載の本は末尾に張金界奴上進という文字を有するもので、「張金界奴本蘭亭叙」と称されるものである。
(編集部)

(編集部)

盛一觴一詠亦足以暢叙幽情是日也天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大俯察品類之盛

*落款を必ず入れる

所以遊目騁懷。足以極視聽之娛。信可樂也。夫人之相與。俯仰

感一觞一詠之至，暢叙幽情。

是日也，天朗氣清，惠風和暢。仰

觀宇宙之大 俯察品類之盛

時以遊目騁懷足以極視聽之

娛信可樂也夫人之相與俯仰

(96%縮小)

特別研究部臨書課題

（全紙以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

用紙 半紙普通判（料紙可）

注= かな研究部競書作品は、
上の古筆の掲載部分より

歌一首以上を書く。

（全臨も可）

（81%縮小）

よみ
たまだれのこがめは

いづこゝゆるぎのいそ

のなみわけおきに

※落款を必ず入れる。署名、
もしくは〇〇臨
(押印のみも可)

〈解説〉

曼殊院本古今和歌集は、京都の古寺・曼殊院に伝来した『古今和歌集』卷第十七の残巻で、自然美を思わせるほのぼのとした美の境地が漂っている。

巻頭から順に、藍・浅黄・薄茶・
藍・薄藍・藍・浅黄といった漣き染
めの紙7枚を継いだ、縦一四・二、
横一八六・〇センチからなる可憐な
巻物である。しかも、本紙一面に粉
末を撒き散らしたように見えるのは、
一説に香木の粉末であるとか、また
色素の粉を丁寧に撒いたなど諸説が
あって断定しがたい。ともあれ、色
替わりの紙を継いだ色彩感覚は、卷
物に一段の光彩をもたらしている。

ばかりなむ

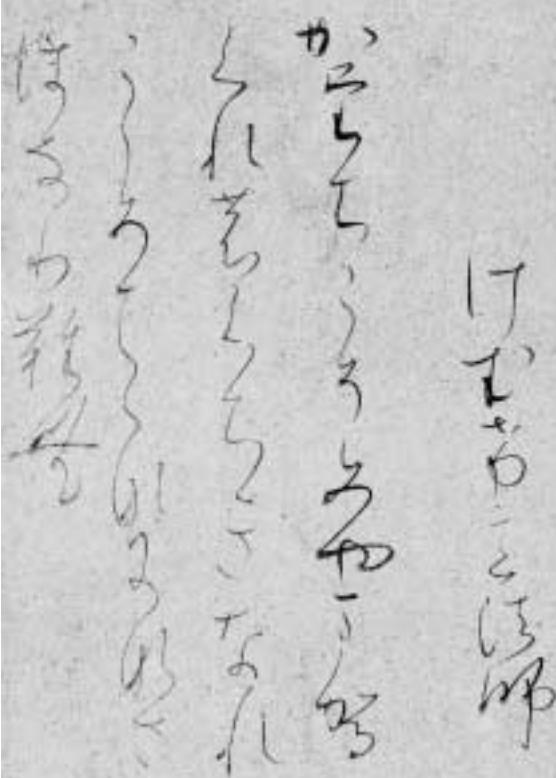
けむげい法師
いとでにけり

かたちこそみやまが

かたちこそみやまが

けむげい法師

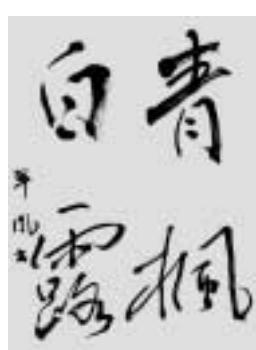
のなみわけおきに



習い方解説 (一)

最首翠風

青楓白露
(青楓白露)



最近鑑賞した松井如流先生の四幅仕立ての行書作品が目に残っています。温かく重厚、そして緻密。王羲之などの学書をどれほど重ねたことでしょう。その余韻の中で行書作品を書いてみました。「晋祠銘」の線を念頭に置いています。参考手本（または直師の手本）を見て書くのも悪くありませんがそれにプラスしてオリジナリティのある作品を試みましょ。ここでは筆を変えて生じる線の変化を呈示しました。五貂五羊の兼毫筆と牛耳毫です。

習い方解説 (-)

小林琴水

花意竹情
(花意竹情)

楷書は、始筆と終筆で決まります。途中の線には味をもたせる。ゆっくり息をしながら、筆をつりあげたり、圧をかけたりしながら線に変化をつけてください。

空間のとり方で、明るさ、豊かさが出ます。スッキリと仕上げましょう。筆は中峰で書きました。皆さん、お手本をまねるだけでなく、自分なりに、九成宮の調子で書くとか、黄庭經の調子で書くとか、毎月、決めて書かれては、いかがでしょう。お手本は、参考にしかすぎません。



書体＝楷書

習い方解説（一）

石井明子

夕されば小倉の山に鳴く鹿は
今夜は鳴かず露宿にけらしも
(万葉集 舒明天皇)

字を習うことは美しい景色の作品を創る第一歩です。基本の古筆を学び、ここに辿り着いたのだから、今後は創作のための技術を考えましょう。

・墨色、墨量について

提出される清書の多くに見られるのが、構成、字形共よく出来ていながら、墨量过多で紙面を汚くしている作品です。自・づと使用する紙が影響します。かな用を選んで下さい。料紙もお勧めします。

潤筆部分の速書、微妙な滲み、渴筆の筆圧をかけた運筆を組み合せ、濃すぎない墨色で、一枚の絵を描く気持で制作してください。

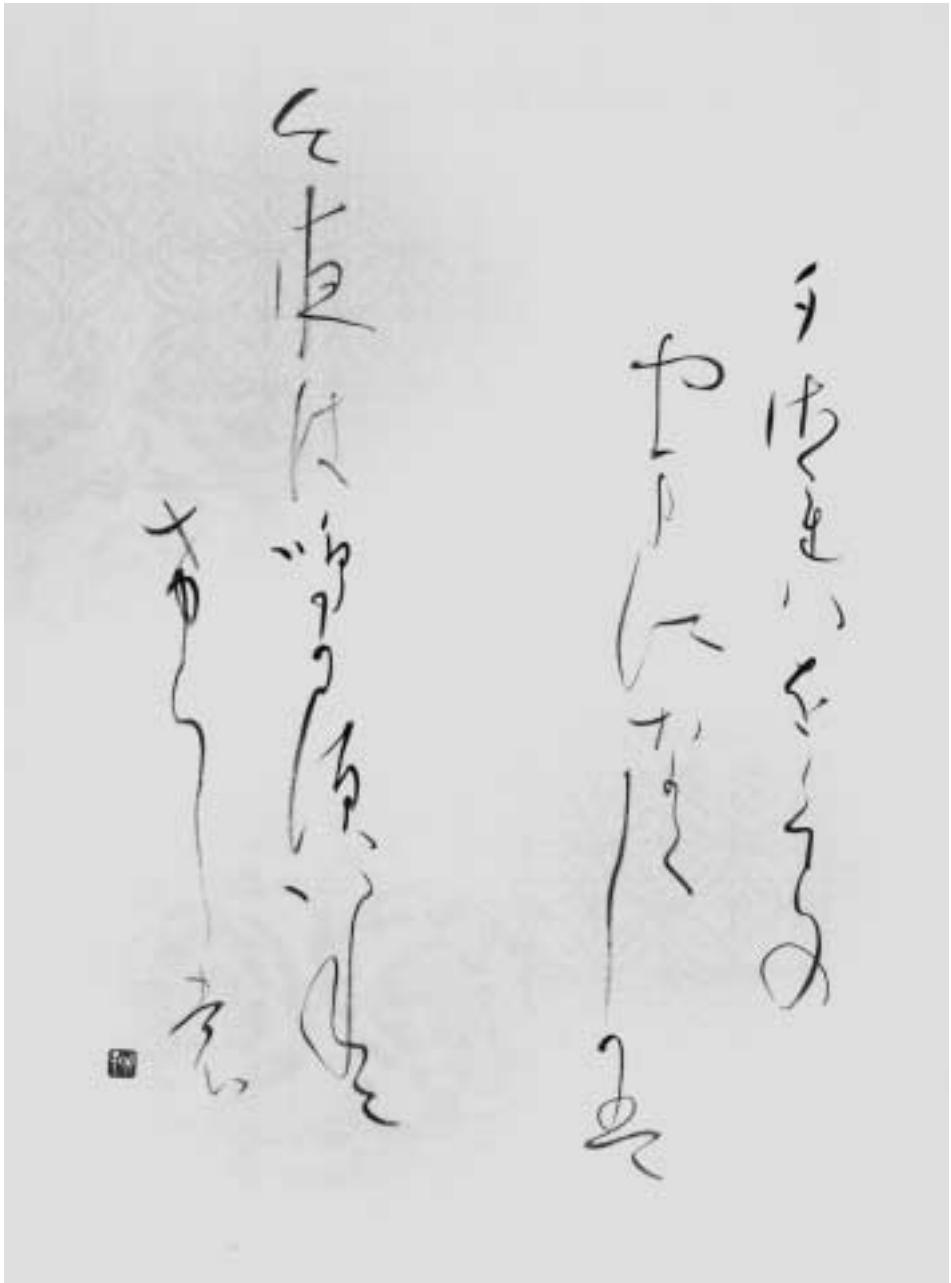
技術の上に、深い心を込めましょう。

歌意は、夕方になるといつも小倉の山で鳴く鹿が、今夜は鳴かない。寝てしまったのであるうよ。

よみ方 夕さ(佐)れ(連)ば(八)をぐ(久)らのや(也)ま(万)になくしか(可)は(盤)

今夜は鳴か(可)ず(須)いね(年)に(口)け(希)らしも(裳)

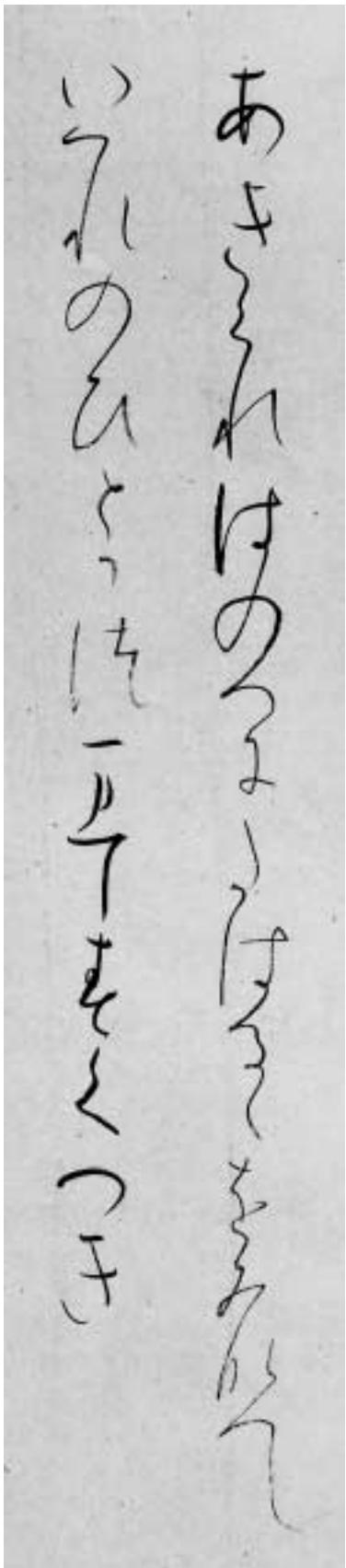
創作



かな規定 秀級以下【十一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ （料紙可）（たて32センチ・よこ12センチ）

掲載写真のうたを全體、または部分（二字以上の連綿）を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 あきく(久)ればのべに専(多)はるゝをみな(那)へし
いづれのひとか(引)つ(徒)ま(万)です(春)く(久)べき

習い方解説 (一)

和氣しげ代選書

立田姫染めし梢のちるをりはく
れなるあらふ山川の水

(山家集)

条幅作品をまとめるには「リズム」が大切です。ゆったりと書き出し、墨量の少なくなる二行目は運腕大きく、ゆっくり沈めるように。渴筆の動きが、作品を創り出す要素になりますが、全体を考慮して、自由に仕上げて下さい。

創作

*たて形式に限る

よみ方 た(堂)つた(多)ひ(悲)め(免)そ(所)めし梢の(能)ちる
を(越)り(利)は(八)く(久)れな(奈)るあ(阿)らふ山川の水



かな条幅規定【十一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切（料紙可）

和氣しげ代選書

習い方解説 (一)

西林乘宣



景行維賢克念作聖德建名立形端正

(景行あるは維れ賢克く念えば聖と作る徳建てば名立ち形端しければ表正し)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【十一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

辻元大雲選書

習い方解説 (一)

辻元大雲

今月から担当します。秋の句を一行書きです。楷書、591号からの漢字研究部課題の鍾繇風に書いてみました。ゆったりと厚味ある線質で豊かな表現を心がけて下さい。

書体は自由ですので行書や草書で変化や流れある表現、隸書で落ち着いた味わいある表現もいいですね。

習い方解説 (一)

牧 泰濤

秋も九月を過ぎると黄褐色
もしくは紫褐色の花穂を出す。
この花穂が獸の尾に似てゐるので
「尾花」といふ。

山は暮れ野は黄昏の芳かな
蕪村の句を 泰濤かく

今月より六ヶ月本欄を担当すること
になりました。ペン字を本格的に勉強
したわけではありません。みなさんと
同等いや下等の域です。「書体=自由」
ということですので、ご自身の好みや
ご指導いただいている先生方のお手本
で習って下さい。但し文言だけはこの
参考手本のように、浅学ですが、毎月、
私のペン字に対する考え方を記述して
みます。ご指摘ご指導の程お願いいた
します。

「ペン字考その一」ペン字は「美しく
早く書ける」ことが第一です。よって
字形は、行草書体が最適です。なのに
今回は楷書体です。ペン字の美しさの
観点は毛筆による点画の字形が基本で
ある。畢竟、毛筆の点画用筆を会得す
ること。それには楷書が一番。面倒臭
いけど、「遠まわりが近道」と思う。

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

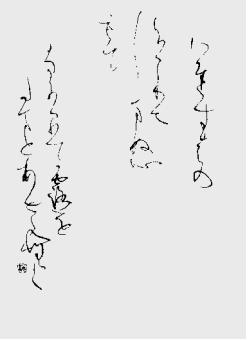
*落款を入れ忘れないようにしてくだ
さい。(落款は自分の名前を入れて
ください。)

今月の

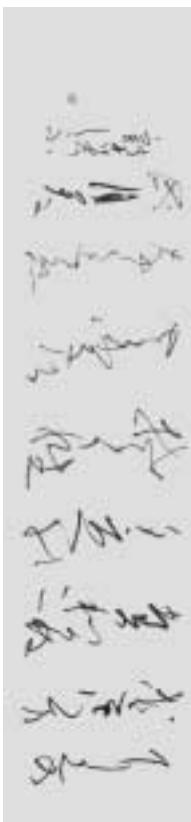
ホープ作品 各部総評

No. 592

かな部 師範 山崎 桜江
無理のない筆致が柔らかな墨色
で用紙をとらえ、えもいわれぬ奥
ゆかしい名品となつた。立派です。
◎かな部総評 字粒の認識が良く
ない貧弱な作が一部にあり残念。
全般には墨量の制御が上達し、紙
面が美しくなりました。(明子評)



漢字条幅部 師範 棚口 華行
現に苦労作多し。大胆な大小の変
化など工夫が必要。隸書表現は安
定作あり。初級も同様。(大雪評)
漢字条幅部 師範 棚口 華行
見せて妙。潤渴大小の変化がリズ
ムを醸し出して爽やかな作。



かな条幅部 三段 小暮 祥峰
手本をよく理解した上でリズム
を柔らかく操り、書込んだ様子の
娘やかなタッチが実に美しい。



現代詩文書部 特選 鶴山 美梢
練れた線質で落ち着いた空間の
とり方である。後半の細字も効果
的で安定感のある作品にしている。
◎現代詩文書部総評 作品製作は
一つの意図をもって臨む事。創作
意欲が感じられない。(素雪評)



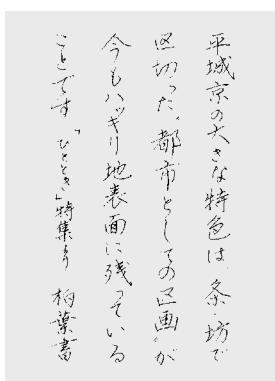
前衛書部 特選 相澤 柴扇
無理、無駄のない線質、余白の
取り方、渴筆、静かさ、そして美
がいっぱい、申し分ない傑作。
◎前衛書部総評 制作にあたり、
試行錯誤、努力はよく見えます。
新たな発想で挑戦を!!(光昭評)



◎かな条幅部 総評 変体かな堂
李の誤字が多かった。横形式は特
に全体の流れが出しにくいので、
熱す十分な時間が必要。(洋子評)



漢字部 師範 高木 蒼信
ゆったりとしたリズムの筆法、
線がのびやかで雄大な漢簡の倣書。
温か味があり、豊かさを感じる。
◎漢字部総評 字書を丹念に調べ
て、しっかりととした校字の上で、
古典の学習を基礎とした創作を心
がけてください。(萬城評)



ペン字部 師範 鈴木 柏葉
空間の配置、線質どれをとっても
もよどみなく空間におさまってい
る。名前まで統一された秀作。
◎ペン字部総評 漢字、かな、カ
タカナの調和はなかなか難しい。
特に最後の小さい字をまとめ切れ
ない作もあった。(蒼玄評)

今月の

特別研究部優秀作品(特選)



千葉紅雪書

180×60cm

漢字 (玄穹) 千葉紅雪

「五風十雨」

◆漢字に前衛的書法が入り、やや読みにくいが感覚の鋭さを見せて
いる。余白のバランスが冴える。

◆大きな心で筆先まで力をこめて書く精神を感じる。空間をうまく
取り入れ紙より大きな世界感す。

◆漢字というより書線の可能性を示してくれた作品である。墨色も
よく空間を圧して強い。印は右か?

◆漢字作品の可能性に挑んだ作。視点を右側に寄せ余白の広がりを
持たせた感覚は見事というほかない。

(洋子評)

(洋子評)

(洋子評)

(洋子評)

前衛書 (調布)
下畠紅蕙
「ふれあい」



下畠紅蕙書

88×70cm



岩崎陽光書

180×60cm

現代詩文書 (陽陽) 岩崎陽光

「齊藤史の歌」

◆体の動きの大きさを感じさせてくれるがあまり意識的になりすぎ
た所があるので表現を考えて見て。

◆単純な線ながらねらいがはっきりしているせいか多彩に見える。
渴筆になつた時の変化がほしい氣もする。

◆齊藤史の歌を表現し、創作に喜びを感じていることが見られる者に伝
わる。俗に流れる手前で留まつた。

◆まず、派手な作品創りで意表を突いた。中の字が迫力を見せるが、
内容からか、構成上か気にかかる。

(洋子評)

(洋子評)

(洋子評)

◆豊かさとシャープさが相俟って
二つの集団の呼応も見事です。

(翠風評)

◆心と心のふれあいを感じさせて
くれるような表現で見ていて心温
まる感じがする。墨色に少し留意
を。

(洋子評)

◆墨量の変化の乏しさが少々気に
なるが、多彩な線を使使した広が
りを見せています。響きが快い。

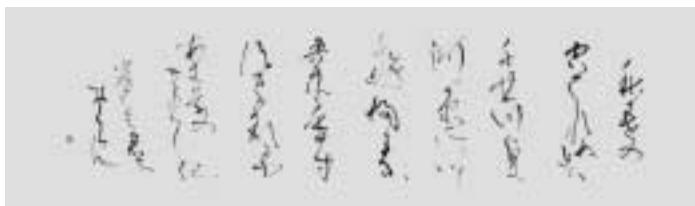
(洋子評)

◆すくい上げるような独特の造形。
にじみを押さえて線は強く沈む。
右上部の線、不用意だったか?

(洋子評)

◆心と心のふれあいを感じさせて
くれるような表現で見ていて心温
まる感じがする。墨色に少し留意
を。

(洋子評)



53×180cm

◆体の動きに併せた運筆が全体にリズム感をただよわせ心ひかれる物がある。墨の濃淡が構成効果がある。(倫子評)

◆秋の歌の清澄さ、牧水のロマンを余すところ無く表現。二首目に移行する前の墨つぎも達者と見た。
(翠風評)

「牧水のうた」

(蒼玄評)



松永香秋書

◆ふわりふわりと筆を上下させ暖か味のある線表現だ。零細気はあるが止まって見える所もほしい。

◆ふわりふわりと筆を上下させ暖か味のある線表現だ。霧廻気はあるが止まつて見える所もほしい。

◆呼気の自然さが渾渕にのり心地よい。確かな研鑽が窺え、特に崩れすぎないかなに注目しました。

◆筆先を上手に廻転させて墨の濃淡に変化もたせ、その動きが詩を口ずさむリズム感を与えて呉れる。



70×136cm

前衛書
(湘南) 佐藤詠子

一道

◆不思議な作品、どこがと言ひ表しにいくが、得も言えぬ底の厚さを感じる。感性か人間か、変化に興味。(洋子評)

◆不思議な作品、どこがと言ひ表しにいくが、得も言えぬ底の厚さを感じる。感性か人間か、変化に興味。(洋子評)

がと言ひ表
ぬ底の厚さ
か、變化に

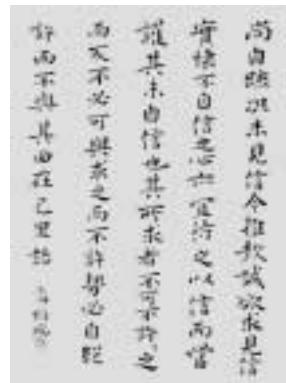
◆とりとめもなく広大な空間を有する作品である。線とか形とか細かな点を超越して語りかけてくる。

(翠風評)

漢字研究部
(宣示表)

選評 大野祥雲

今月のホープ作品



奥田嵩柏

課題七十一字の全臨。五行に書き、行間を十分とて明るいまとめです。扁平な字形、長い横画、短い縦画、開閉のきいた左右の扱い、丸味のある折れ、自然な起筆。こうした特徴をよく臨し、見事な作品になりました。

◎漢字研究部総評

宣示表は小楷ですが、課題の法帖は精彩に富み、分かりやすいです。もう一度、じっくり

り観てください。いくつかの点画の組合せにより、味わい深い文字が並んでいます。点画の省略もあり、行書的な運筆も目立ちます。特に注意してほしいと思ったのは、氣脈です。一点一画バラバラでは生きた文字になりません。また、臨書作品であっても紙面に対する文字の大きさと余白の関係は大切です。なお「求」の点を忘れている方がかなりいました。



良珠美正泰柏
子巳穂江瑛秀

阜智眞白湖加代
月子理水舟子

哲完喜星光箕
美子治枝祥琴城

紅大叙侑真華
華雪舟豊蘭舟

か な 研 究 部
(元永本古今集)

選評 田 村 澄 子

今月のホープ作品

中華人民共和國憲法

神 谷 雲 卿

◎かな研究部総評
全体的に誤字は余り見られませんでした。只臨書ではないのが何人かありました。臨書は古筆をよく眺め、目の勉強が大切だと思います。

かな研究部成績表

星楠睦

紅嘉嵐

彩 彩 彩

昌初か
つ
子江え

高明青北樹玄も右春澄五正山大京正咲高春銚前洞東は調京北秀洞雲声遊泉湘大聲椿樹澄紅紅声土正樹明 明光皓た春慈三
遷陵漢峰陸原象く田汀春葉華王雲橋華舟陵汀子橋書向ぜ布橘陸歌書漢香雲会南阪香翠原春瑤瑤香氣華原漢 漢昭映か汀空鷹
191米吉吉遊守森村富宮真松前堀屋星藤藤深春濱長野西西長中仲中徳辻田田武竹高芹須鈴鉢杉神庄社志嶋重猿佐坂後
名田由田田佐屋田田野内庭岡島切川野本川井澤山田山谷沢村岡島村西塩永 丸中山森橋澤田木木田保司本村 信渡々本藤
千子光十四順藤萩幸ヶ律代幸魯佐松寿晴佳勝竹芝久薰桂悦一寛游彩深洋自美美弓志澄香智香麗佳咏三抱枕由裕深覺祥
和子子治光子米子谷堂枝平平子雲春枝路三子月美雪香子雅苑子水子篠日仙子子枝豪子朋翠舟丹広楓子子伸和舟子香映右子山子